

優秀賞

今の自分がある理由

岩出第二中学校 3年 穂谷 心都

私は中学二年生のとき、「摂食障害」という病気で人生で初めて入院しました。そして私はその人生で初めての入院でたくさんの人に助けられ、たくさんの人に心配をかけ、今年中学三年生になりました。

家族が私をおかしい、と思い始めていたのは私が中学一年生のときでした。私は異常なほどにご飯の量を減らし、運動し、体重を減らすことで自分の努力が目に見えてそれが嬉しくて体重を減らすことに快感を覚えていました。そんなことをして中学二年生の夏になったとき、私はお母さんを泣かせてしまいました。お母さんは私のために毎日働いて疲れているのにおいしいご飯を作ってくれて、いつも私のことを第一に考えてくれていたのに私はそのお母さんの努力と心配を踏みにじってしまいました。このことがあって私は夏休みの初めにお父さんと二人でドライブに行くことになりました。車に乗って夏のすっきりとした雲一つない晴れている空を眺めているとお父さんは私に、「お母さんはいつも心都のことを考えてご飯を作ってくれて、心都のことを今までずっと健康な体に育ててきてくれたんだよ。」と言いました。でも私はそのことを頭で分かっているつもりでもどうしてもご飯を食べることが怖くて、どんどん体重が減っていきました。

中学二年生の秋、私は放課後、保健室に呼ばれました。その理由は低体重だからという理由でした。もちろんそのあとお母さんに電話がきて、お母さんと二人で話し合った結果病院に行くことになりました。そして私は緊急入院となり、人生で初めて入院することになってしまいました。そのせいでお母さんは職場に電話、「すみません、すみません。」と何度も電話ごしにあやまるお母さんの背中を私は病院のベッドに横になって、ただ見つめることしかできませんでした。

入院してから二週間ほどが経ったある日、私のスマホに一件の通知が届きました。見てみるとそれは友達からのメッセージでした。「最近学校来てないけど大丈夫？」私はこ

のメッセージを見て、自分がどれだけの人を心配させてしまっていたのかと改めて思いました。友達だけでなく、おじいちゃんやおばあちゃんも毎週お見舞いに来てくれて、その度に「ぼちぼちゆっくりで良いよ。」と言ってくれていました。お母さんやお父さんも家から病院まで遠いのの一週間に何回もお見舞いに来てくれて、「頑張ってるね。」と言ってほめてくれる。私は本当に周りの人達に恵まれて育ってきたんだと思いました。

病院で退院の話が出てきたころ、病院に担任の先生が直接来てくれました。今はもう会うことがなくなってしまったけど、私はその先生が大好きでした。先生は私に「学校に戻ってくるときは心配せずに来たら良いよ、ゆっくり心都のいけるペースでね。」と言ってくれました。私は退院できても、学校に馴染めず行けないのではないかとずっと心配に思っていたから、この言葉にとっても救われました。

体重がある程度戻って、私は二ヶ月ほどで退院することができました。退院してから一番初めの学校はとてもしんどくて今にも心臓が飛び出るのではないかなと思うくらい緊張しました。でも、友達が私を見た瞬間嬉しそうにかけ寄ってきてくれて「久しぶりに会えて嬉しい。」と自分のことかのようにとても喜んでくれました。私はその瞬間、ずっと乗っかっていたおもりのようなものがなくなった気がして気持ちがとても軽くなりました。おかげで私は今、何も気にすることなく楽しく学校に通えています。

こんな私の自分勝手な行動で入院することになってしまったのにも関わらず、お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、友達、先生、他にも色々な人が私を今まで支えてくれました。人は一人じゃ生きていけないし、誰かの支えがあってこそ自分だと思っています。このことを伝えたくて、私はこの作文を書きました。ありきたりなことかもしれないけれど、私の気持ちがこの作文を今読んでいるあなたに伝われば良いなと思います。